

文学7(日本のことば)

日本語は、むづかしいですか？

萩原 義雄

この質問に答えていただけた人たちが解答したなかで、ベスト四の項目を次に挙げて見ました。

1、「は」と「が」の違い

未知と既知の概念↓大野晋著『日本語練習帳』(岩波新書刊)

2, 助数詞の種類

「本」ホームランの数。鉛筆の数。樹木の数……。

「個」果物の数。

「つ」年齢の数。

3, 省略表現

大学の名前「駒大」「名大」「阪大」「北大」「東大」……。

企業の名前「東電」「東急」「テレ東」……。

地名の名前「二子玉」「三茶」……。

場所の名前「駒公」「名駅」「関空」……。

職種の名前「日銀」「郵貯」「日赤」…「短観」(全国企業短期経済観測調査)。

省略言語の極めつけとして「東急」その店の名「ネーミング」づくり

「東急」→「トーキョウ」→「TOO」→「one-oh-nine」

この手の「命名」(ネーミング)のことは、あちこちに出現しています。「ことば探しの旅」を試みるのもよいでしょう。

近代語における流行語・若者ことばとして定着していることは表現にもこの省略表現が確認できます。たとえば、「ジカジョー」(「自意識過剰」)「バチこくしい」(「うそっぱち」)「うそつき」という感じで省略語が用いられています。

4, カタカナ語

和製英語とでもいうのが正しいのかもしれない。日本人だけが理解しているカタカナことばがわかりにくい。これは日本人が外国に旅行して英語だと思つて使うと意味不明瞭な表現となつていて、事先に進まないという体験に出くわすのだから……。住居用語の「マンション」…「エントランス」。「ペントハウス」はたまた、「ペDESTリアンデッキ」など、実際どうなのかはとつさには判断できないのが常では無いでしょうか。そうしたことの例えに、「ビッグサマーセールインホテルセンチュリーハイヤット」となると、視覚イメージすら及ばない世界となつてしまっていることに気づくことでしょうか。

これらの語を漢字に置き換えするかどうか……。「型録」(カタログ)「硝子」(カット)「鍵語」(キーワード)「頁」(ページ)「燐寸」という方法で、「電子映像機」(ビデオカメラ)などと漢字で表記する試みは如何なものか……。写真撮影を専門にする人である「写真家」(カメラマン)で、その機器を「写真機」という。この語を「カメラ」とカタカナ語で呼称するようになったのは、せいぜい三十七年前のことでした。仕事から解放され、自由に使える時間を意味する

「余暇」の語も一九六〇年代からは「レジャー」の語が流行語となり、以後、観光産業、外食産業などの「レジャー産業」が隆盛を極めて今日到っているからです。
実際に広告媒体のキャッチフレーズには、「キイポイントは経験」ノウハウ「日本ユニパック」などの表現が用いられています。

世界の言語と日本語

母国語と外国語

「母国語」とは、人が生まれて「三つ子の魂百までも」という諺が象徴するように、三歳までに両親や周囲の大人が教えてくれたことばを基調にした言語を云います。実際には、十二歳すなわち、小学校六年生くらいまでが母国語としての言語確立期と考えられています。海外でこの時代を過ごした日本人である帰国学生が直面する日本語を母国語とするか否かという言語の最終選択の時期にあたっています。

ここで云う言語の確立ですが、「話すこと」から「書くこと」までを統括して見ていることとなります。とりわけ、「書くこと」、日本語を母国語とした場合、その表記文字とは「漢字」「ひらがな」「カタカナ」「ローマ字」「アラビア数字」を習得した人ということになるのです。それ以外の言語は、外国語となつていきます。ここで、父親がイタリア人で、母親が日本人と云うケースはどうでしょうか。この逆もあるのですが、母国語が二つあると云う人も昨今少なく無いのです。これを応用して云えば、日本語のなかでも云えるのではないのでしょうか。標準語と方言の使い分けもこれに似ています。沖縄の人が「ナクルナイサ」ナ「何とかなるさ」と表現します。これと同じように弘前の人が、富山の人が、徳島の人が、それぞれの「お国ことば」で表現することにも繋がっているのです。たとえば、「えらい」は、関東の方

と関西の方とではその意味合いが異なつた言い回しとなっていることは承知していることがらではないでしょうか。「おつかない」という地域もある。「ごつつい」「やにこい」「わっぜーか」「大した」とお国ことばで表現しますと、異なつた地域の人にはたちまち全く意味不明なことば表現となってしまうのです。

日本語の「乾杯カンバイ！」は、韓国語では「コンベイ！」と云います。同じ漢字から発音を異にしていることで日韓における漢語ことばがより類似していることに気付くときでもあります。ドイツ語で「プロースト！(Prost)」。イタリア語では「サルデー！」と云う。イスラエルのヘブライ語では、「レハイム(Lehaim)」というのが日本語の「乾杯カンバイ！」の意味になっています。こうした世界中のことばとも触れ合う機会が訪れることもそう遠い先の話ではありません。もうあなたの足下に近づいてきているのですから……。

英語がナンバーワン？ 使用者人数と人口数

エスキモー語のことばの長さ一番

「fusaa-tsia-rumna-ngit-tualuu-junga」私には良く聞けません

日本漢字表記語も長さ一番

「東京都世田谷区駒沢一丁目駒澤大学」と云う「場所」

「梅ヶ丘高架下放置自転車等保管所」と云う「場所」

都道府県名の長さ一番は、「和歌山県wakayama」「鹿児島県kagoshima」「神奈川県kanagawa」

※「課題1」「國境の長いトンネルを抜けると雪國だった」というのは、川端康成の名作『雪國』の冒頭文です。この部分の読み方について、どう読むのかと一緒に考えてみることにしましょう。

《回答そして、再び課題》

文学作品でも読み方ひとつで鑑賞内容が変容することがあります。川端康成の名作『雪國』の冒頭文「國境の長いトンネルを抜けると雪國だった：」の「國境」を字音で「コツキヨウ」と読むかといえば、そうではなく字訓で「くにざかひ」と読むことで凡てが和文調の凛と引き締まった国風の気が漂い、仄かな憧憬の場となって読む人のころに響きわたつていきます。実際に、「くにざかひの ながい トンネルを ぬけると ゆきぐに だつた」と読むすばらしさに出会えるのです。

ですが、作家川端康成は、「國境」と「雪國」を何故漢字で表記したのでしょうか。和語読みにする熟語漢字の二文字が茲に用いられていることに気づくのです。この両語を字音と字訓に読んでしまうと、やはりチャンポン感が漂ってしまうから不思議な感を覚えるのです。

実際、作者川端康成自身、昭和10年の「夕景色の鏡」という題で雑誌に発表した文章は、書き出しを「濡れた髪を指でさはつた。―その触感をなよりも覚えてある、その一つだけがなまなましく思ひ出されると、島村は女に告げたくて、汽車に乗つた旅であつた」で昭和12年に単行本となる改編冒頭部のところは、「國境のトンネルを抜けると、窓の外の夜の底が白くなつた」と記述していましたが、ここでは字音で「コツキヨウ」と読んでもいい文脈表現です。決定版でこの上記文面にして、この書名となる「ゆきぐに」という読みから見た字訓漢字表記「雪國」という熟語の読みがこの冒頭の「國境」の読みを変容させたのではと私なりに考えています。

また、この後に、「驛長さあん、驛長さあん」という呼び掛け声の女性人物の名は、「駒子」ではなく、何故か「葉子」なのです。私は高校の教師をしていたとき、小説に登場する人物の名前を調査したことがありました。

人の名は、音訓混用があります。この作品中、この冒頭近くの呼び掛け声の持ち主をなぜ、混種読みの「葉子」と云う名にしたのか？その疑問を抛掛けておきます。

- A 和語読み人物名：駒子。聡子。雅子。定子。
- B 漢語読み人物名：〔中国〕孔子。孟子。老子。
- C 混種読み人物名：葉子。陽子。洋子。京子。優子。

《余談》



この「国境」とは、群馬県(上野國)と新潟県(越後國)との県境をいうのであり、「上越国境」と表現されてきています。この「長いトンネル」とは、清水トンネルのことであり、清水隧道がある湯檜曾駅と土樽駅間を複線化するにあたり、新清水トンネルが切削され、一九六七年からは下り線用として供用を開始したため、旧来の清水トンネルは上り線用となった。そのため、現在では川端康成が執筆した当時の清水トンネルを抜けて「雪國」を訪れることは残念ながらできないということです。

岩波文庫の「あとがき」に川端康成本人が書いています。「雪國」は昭和九年から十二年までの四年間に書いた。年齢にすると二十六歳から二十九歳で、三十代後半の作品である。息を続けて書いたのではなく、思ひ出したように書き継ぎ、切れ切れに雑誌に出した。そのため不統一、不調和はいくらか見える。はじめは『文芸春秋』昭和十年一月号に四十枚ほどの短編として書くつもり、その短編一つでこの材料は片つくはずが、『文芸春秋』の締切日に

終わりまで書ききれなかったために、同月号だが締切の数日おそい『改造』にその続きを書き継ぐことになり、この材料を扱う日数の加わるにつれて、余情が後日にのこり、初めのつもりとはちがったものになったのである。私にはこんなふうにしてできた作品が少なくない。この「雪国」のはじめの部分、つまり昭和十年一月号の『文芸春秋』と『改造』とに出した部分を書くために、私はこの「雪国」の温泉宿へ行った。そこで自然と「雪国」の駒子にもまた会うようなことになった。はじめの部分を書いている時に、あとのほうの材料ができつつあったと言えるであろう。またはじめの部分を書いている時に、おしまいのほうの材料はまだ実際におこっていないかというわけである」と、ご自身が記述しています。

〈原稿文の翻刻〉

雪国

川端康成〔押印〕

國境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなつた。信號所に汽車が止まつた。

向側の座席から娘が立つて来て、島村の前のガラス窓を落した。雪の冷気が流れこんだ。娘は窓いっぱいに乗り出して、遠くへ叫ぶやうに、

「驛長さあん、驛長さあん。」

川端は、旧漢字を多用してこの作品を書き上げている。だが、次の五箇所は何故か旧漢字を用いないで表現している。

※①「シンゴウジヨ」を「信號所」で表記。「信號處」とはしない。※「シンゴウシヨ」とも。
※②「きて」を「来て」で表記。「来て」とはしない。

※③「レイキ」の「キ」を「気」で表記。「冷氣」とはしない。
※④「まど」の字を「窓」で表記。「窓」とはしない。

※⑤「のりだし」の「のり」を「乗」で表記。「乗」とはしない。

岩波文庫ブックカバーに、この冒頭部分の自筆原稿が掲載されています。これを見て字音読みを拾い出してみますと、「信號所」「汽車」「座席」「冷氣」「いっぱい」「驛長さ」の六語が確認できます。字訓読みの語は、名詞類：「夜」「底」「向側」「娘」「島村」「前」「雪」「娘」「窓」※「ガラス



窓」。動詞類：「抜ける」「止まつ」「立つて来」「落し」「流れこん」「乗り出し」「叫ぶ」。形容詞類：「長い」「白く」「遠く」となっています。

この表記法から川端康成自身の書記技法を見つけていくと、もう一つ「トンネル」「ガラス窓」といったカタカナ表記の文字が織り成す、実にハイカラな文化世界の波が作家川端康成にも押し寄せていて、この二語のカタカナ語も日本の文字言語社会の未来像を物語っているのではないのでしょうか……。私はこのような手書き原稿のもつ、計り知れない文章表現の奥底の世界を活字本では消し去られてしまった作者自身による手書き文字表記による「肉筆原稿」を用いることで、少しづつ切り拓いて読んでいきたいと考えているのです。ですが、まだまだ肉筆原稿の公開資料はほんのわずかでしかありません。でも、諦めずに見てきましょう！

《参考資料》

※『川端康成全集』（全二十五巻、補巻二冊・新潮社刊）の第十巻に定本『雪国』、第二十四巻に初出『雪国』（ブレオリジナル）を所載

※平山三男編著『遺稿』雪国抄』影印本文と注釈・論考』（平成五年九月、至文堂刊）

※林 武志『雪国』研究史』（昭和59年10月、教育出版センター刊）

※羽鳥徹哉『作家川端の展開』『雪国』を読む』（平成5年3月、教育出版センター刊）

※松岡正剛の千夜千冊第五十三夜【0053】2000年5月18日

川端康成『雪国』1937,1947,1988 岩波文庫 他

<http://www.isis.ne.jp/mmn/senya/senya0053.html>

※飯間浩明「国境の長いトンネル」…「國境」の読み方、和語「くにざかい」と漢語「コツキョウ」

<http://www.asahi-net.or.jp/~qm4h-ijm/k020322.htm>

『遊ぶ日本語不思議な日本語』（岩波アクティブ新書）155頁

《補足》

※『雪国』に関する研究論文や文献資料の目録は、未発表なのでしょうか？

論文名に、「雪国」の文字は出ていなくても『雪国』に関する重要なことから発信している資料を含めた目録を想定していくことが今後必要です。ありとあらゆる資料に目を馳せて完璧な『雪国』に関する研究論文や文献資料の総目録を完成していくことを願っています。

昨今のコンピュータに所載された資料はまだ「目指している目標への過程」であると断って作成を目指すべきでしょう。もし、大切な資料が入力されずに総目録が構築されると、忘れ去られてしまう可能性がなきにしもあらずとなってしまうからです。目録・索引づくりは軽々しくはできない由縁でもあります。

その一つに、古典文学作品との関係があります。『雪国』には、謡曲「松風」、長唄「勸進帳」、『北越雪譜』、芭蕉などの名前や「民謡」の引用があったりすることも知っておきたいことがらです。こうして、日本文学の基調さがこの作風のなかに融合し、浸透していることに気づくことの大切さを学んでいくことにもなるでしょう！